

行政調査報告書

令和7年2月7日

会 派 名		沼田創生会	議員氏名	戸部 博
1	日 時	令和7年2月5日(水)		
2	調 査 地	長野県塩尻市		
3	調査事項	シビック・イノベーション拠点「スナバ」		
4	所 感	シビック・イノベーション拠点スナバは、平成30年8月にオープンした一般財団法人塩尻市振興公社が管理・運営する施設である。 この施設は、地域の課題を解決するためのアイデアやプロジェクトを育成、地域住民や企業の交流の促進、協働による新たな価値創造、若者や起業家の支援を通じて地域経済の活性化を図ることを主たる運営目的としている。 私が思うに、現在、地域が抱える課題は多様化しており、経済格差や環境問題、社会不安や情報通信技術の利用の程度、社会的な格差など枚挙にいとまがなく、それらが各人に閉塞感をもたらし、地域社会の活力や活動を阻害する要因にすらなっている。それらを解消する手がかりとして、「スナバ」を設立したものと推察した。まず、「スナバ」の名称について、当初、何故に「スナバ」なのか興味を抱いた。説明をいただく中で、公園の砂場のように人が集まることを企図しての故と聞き、創設者たちの思想と熱意と合致し、その考えに合点がいった。また、それだけでなく、知恵・知識、熱意・熱量が砂場の砂のように集積しているということも含め「スナバ」という名称に至ったものと推察し、これは場所というよりもむしろ創意工夫、知恵、熱量の集合体といえるものであると認識した。 具体的な「スナバ」の機能として、シビック・イノベーターたちのコミュニティ形成、インキュベーションプログラムの実施、事業化の支援体制の整備、他地域や企業向けのイノベーション創出コンサルティング、ブランディング・プロモーション事業の推進、賃貸オフィスの管理・運営などが挙げられる。行政に過度に依存することなく、また、民間活力に過度に負荷をかけることもなく、機能・活動に多様な人が自らの意思で関わり、いわば未来型思考により、課題解決を図ろうとする姿勢はこれまでにないバランス感覚であり、その柔軟な発想とそれを現実のものとする企画力と行動力、そして「まず、第一歩を踏み出す」という姿勢に感服した。他の自治体においても類似する施設はあるものの、その機能により、コミュニティを強化することを目指すことはできても、そこに多様な人材、知識、熱量を集積し、それをもって種々の課題解決に転化し、さらには人材育成まで進めていくは容易なことではない。今後、当該施設が抱える認知度の向上、運営力の強化、資金調達といった不安点についてもここに集う多くの人たちの知識と熱量で、誰かに負荷を片寄せすることなく、また、負荷を負荷とも感じることなく、この「スナバ」がさらなる進化を続ける姿を思い描いた。 現在社会の多様なライフスタイルの背景に存在する様々な課題や悩みは行政のみの力で解決できるものとは考えにくい。ここでは「スナバ」をいわば効果的・合理的な機能(ツール)とした。本市においても、このツールの創出について学ぶ必要があり、また、その着眼点・思想についても大いに学ぶ必要があると感じた。 市民の皆さんが等しく幸福を享受できる社会の形成には、やはり、自助、共助、公序のそれぞれが分断されることなく、また、各人が孤立することない状態を構築しなければならない。私は市議会議員の一人として、市民の皆様と行政の架け橋の一つになれるよう、引き続きこうした好例を学ばせていただき、研究を重ね、本市の課題解決、地域の活力向上に役に立てるよう努めてまいりたいと感じた次第である。		

会派名		沼田創生会	議 員 名	桑原 敏彦
1	期 日	令和7年2月5日～6日		
2	調査事項	① 塩尻市視察（スナバ）		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

① 塩尻市視察（スナバ）

塩尻市の人口は約6万5千人、産業構造は1次産業7%、2次産業34%、3次産業59%を構成しています。1次産業ではリンゴやブドウなどの生産が盛んで、中央アルプスの山並みを背景に沼田市と同様、水と緑に囲まれた田園都市です。

視察先は塩尻市振興公社が運営している「スナバ」と「KADO」と言う、2つの施設を案内していただきました。

スナバは、若者の起業や高校生向けの起業化プログラム、更には企業向けのコンサルなどを行う施設です。当日の施設内には多くの若者が集まり独自の仕事をっていました。スナバと言う名前の由来は、ワクワク、楽しい予感がして、行けば誰かがいて一緒に何かをつくることできる、公園の砂場のような場所をつくるため「スナバ」と名付けたそうです。

そしてスナバのビジョンは、市民の、市民による、市民のためのイノベーションを、課題も欲求も自分ごとで考え、行動を起こし、一人ひとりが生きたいまちをつくる事とあり、人を創る・事業を創る・場を創る事の3つの事業をっていました。6年前に立ち上げ、そのコワーキングの成果は、メンバー数309人・新規事業数38件・移住者数は71人と、驚異的な結果です。更に、高校生起業家プログラムでは地元の高校と連携し、高校生にさまざまなチャレンジの機会や、出会いを創出する事で、塩尻市の地元愛や地元での就労へつなげていました。そして現在では、スナバの取組みを支援している企業や個人が塩尻市に集結しています。

●沼田市の方向

沼田市においても、若者が沼田への地元愛や行動を起こせる居場所をつくり、行政が市内就労へとつなげる取組みを行うべきと考えます。

会派名		沼田創生会	委 員 名	小野塚正樹
1	期 日	令和7年2月5日・6日		
2	調査事項	長野県塩尻市・シビックイノベーション拠点スナバ・振興公社 KADO		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

○視察の結論と今後の展開

塩尻市の取組みは本市にとって必要ですが、言葉や資料での説明には限界がある程壮大です。今後推進するにあたり、まずは沼田市役所に訪問してもらい、イノベーションにより様々なものが循環している様や、それを可能にする最先端産業推進室や振興公社の必要性を説明していただくか、実際に塩尻市を訪問していただきたい

- ①沼田市長・職員に塩尻市への視察を打診する、又は委員会視察を提案
- ②塩尻市先端産業推進室、振興公社、スナバの講演会を要請
- ③議会でイノベーションによる市政運営を提言
- ④行政の一般事務事業ではなく、まちづくりの根本部門の設立を訴え活動していく

面談者：塩尻市 商工観光部 先端産業振興室長 太田 様

塩尻市振興公社 三枝 様

シビックイノベーション拠点スナバ 岩井 様、草野 様

1. 視察の目的

塩尻市におけるシビックイノベーション施設「スナバ」の実例を学び、行政・公社・民間がどのように連携しながらまちづくりを推進しているかを調査。

「振興公社 KADO」「先端産業振興室」の役割や運営方法を参考にし、沼田市での産業構築へ応用の可能性を探る。

2. 視察内容と考察

(1) イノベーション拠点スナバ

会員制のコワーキングスペースであり名前のスナバの由来は公園の砂場のように人が集まることを目指して開設

- ・ 会員制のコワーキングブースがあり、気軽に意見交換できる場になっている
- ・ 若者が集い、出合いや情報交換等エネルギーがある場所として機能
- ・ 行政・民間・市民が連携し、新しいアイデアが生まれる環境を提供

- 個人やスタートアップなどを後押しする設備環境やサポート体制が整備されている
- ここを住所に企業することができる
- 挑戦者が集い、エネルギーがある場所として機能
- 行政・民間・市民が連携し、新しいアイデアが生まれる環境を提供
- 移住者多数

沼田市においても、市民と協力してオープンなコミュニティスペースをつくることで、活発な交流を促進できると考える。

現状の創業支援事業などが沼田市にもあるがこれは一つベースになるのではと考える。場所については目抜き通りの1Fで、中のエネルギーが市民に伝わるように現状テラスの多目的スペースか下之町エリアの旧イシザワショップ等に出来ると良い。

(2) 先端産業振興室の役割

- 一般的な行政事務とは独立し、未来のまちづくりに特化した部署
- デジタル施策・企業誘致・最先端技術の活用を推進
- 交付金や国の施策を活用し、継続的な事業化を図っている

沼田市にも同様の「先端推進室（仮称）」を設置し、未来志向の施策を継続できる体制を構築すると市が活性化していくと考える。

驚いた実例：自動運転レベル4の取組みとその狙いについて

塩尻市ではレベル4の実証実験を行っており年間数千万円の投資をおこなっていた。

これは、地域交通という側面からは採算がとれないことは認知していた。それを市民や議会にしっかりと説明していて、本来の目的が共有されていることが良く分かった。

説明のロジックとしては自動運転を進めることで費用は掛かるが、自動車メーカーや商社・国・投資家・インフラ事業者・IT関連業種が集積していくことで新たな産業や仕事が発生しそれをKADOが受託し雇用を生みつつ企業の進出が相次いでいる。

これにより固定資産税、法人税が増え人口も年間で2桁での減少にとどめている。

この、自動運転事業への投資を別の側面から回収できていて、それを市民も実感していることは現地を訪れ感じる事ができたのは価値があった。

(3) 一般社団法人塩尻市振興公社 KADO と複合施設 CORE 塩尻

【発足の経緯】

イトーヨーカ堂撤退による市街地再開発の失敗と、急速に始まった人口減少に危機感を持ち、空き店舗を複合施設 CORE 塩尻として市が管理し中に塩尻市振興公社 KADO を配置した。沼田市におけるグリーンベルが同様。

【振興公社KADOにおける女性活躍を目撃】

仕事は自動運転レベル4のデジタルマップの作成という最先端の作業をおこなっている。本来は高額な委託料を市外に払うが、KADOで内製化を進めることで、資金の流出を止め、更に作業が出来るIT人材を育てていることに目を疑った。

またデマンドバスのコールセンター業務等を受け持ち塩尻市はもとより九州や多くの自治体から業務委託を受け、現地の地図データのモニターがびっしり並んでおり、最先端業務を確認でき、またその全てを女性がおこなっていた。(当然の様に託児所は整備されている。)

【施設内の活用事例について】

- ・フリースペースは開放的で居心地が良く、学校帰りと思われる小学生が何かの課題について意見交換をしている姿は、将来起業していく姿が容易に想像できた。
- ・企業オフィスも併設し、エプソンを始め、自動運転関連の企業が入居しその業務の様子もガラス越しに見えて、子ども達も大人のクリエイティブな仕事を身近に感じる環境であり、子どもが地元で生業を立てることが自然になっていると感じた。

【eスポーツ施設】

ここにも女性への配慮がありそれを理解できる市民がいた。

ひとり親の家庭が増えるなかで、経済的な理由でeスポーツに触れられないことが無いようにということでeスポーツ設備が完備されていた。

私のイメージで市営のeスポーツ施設と言えば、低グレードPCやデバイスが配置させる程度だが、ここは最新の最高グレードのGPUを搭載したゲーミングPCと専用モニター、ゲーミングチェア、ヘッドフォン、ゴーグルが配置されその本物へのこだわり、ここまでやるのかというのが本音でした。

そして、これを子どものためという理由で市民や議会が理解している点に驚きを感じた。先ほど述べたように、ここまでやるのかというくらい本物が配備されていると、本物のクリエイターやゲーマーが訪れ話題となり、何時しかゲームやIT関連企業が訪れ、それを事業化する民間が現れるとい事象を目撃し正直に言葉が出ない。完全に投資を回収できている実感ができた。これが納得できる理由であり沼田には足りない思想と行動力である。

沼田市においても、テラスを利用し、若者や市民が自由に集える場を提供することで、まちの活性化につながると考えられるが、基本的に向かうべき計画や想いが重要と感じた

(4) 施策を成功させるポイント

- ・ 市・公社・民間が一体となって動く仕組みが確立されている
- ・ 市の総合計画に基づき、長期的なビジョンを持って取り組んでいる
- ・ 国・県の交付金を積極的に活用し、事業化を推進している
- ・ 新規事業の立ち上げを行政が行い（0→1）、運用（1→5）を公社が担い、（5→∞）は民間主導の発展という役割分担が明確
- ・ 行政職員が副業として公社に携わる仕組みの挑戦
- ・ 熱い想いと行動力のある行政マンの発掘と市長の決断が必要

沼田市も、市・公社・民間が連携し、段階的に事業を進めるモデルを採用することで、継続可能なまちづくりが可能になる。

3. まとめ

今回の視察では、塩尻市においてシビックイノベーションが本当に起きていることを実感。また、行政・公社・民間が一体となることで、持続可能なまちづくりが実現できることを学んだ。

今後、沼田市においても、

- ・「先端推進室（仮称）」を設置し、未来志向の施策を推進する体制を構築
 - ・オープンな交流拠点を整備し、民間と連携しながら市民の活躍の場をつくる
 - ・市・公社・民間が連携する仕組みをつくり、シビックイノベーションを起こす
- といった視点で取り組んでいく
- ・チャレンジを応援できる土壌を作る
 - ・行政職員の中でこういう取り組みができる人材を発掘していく

行政調査報告書

令和6年2月10日

会派名		沼田創生会	委員名	木内 修一
1	期 日	令和7年2月5日・6日		
2	調査地	長野県塩尻市		
3	調査事項	地方創生と関係人口創出に関する取り組みについて ・共同オフィス、シビックイノベーション拠点「スナバ」における事例 ・自営型テレワーク推進事業「KADO」における事例 他		
4 【所感】				
○ <u>地方創生と関係人口創出に関する取り組みについて</u> ・訪問先：シビックイノベーション拠点「スナバ」 ・視察説明・講義：塩尻市振興公社 三枝大祐氏 「生きたいまちを、共に創る」をビジョンに「シビックイノベーターを増やす環境を創る」をミッションに掲げた「スナバ」では、企業・創業・まちづくり・移住定住・教育など多方面にわたる課題解決や事業計画などについて、世代や業種を問わず多様なアイデアを持ち寄り、自ら未来をつくろうとする地域内外の人たちが会員登録を行い、コワーキングスペースとして、テレワーク、勉強会やセミナー、交流イベント開催等に活用している。あらゆる人が集まることにより、刺激とエネルギーを得られ、情報の交換と共有により地域の「課題解決」と「地方創生」に向け、共に考え、共に働き、共に創る仲間と出会えるコミュニティとして、重要な役割を果たしている。このように未来感が共有でき伴走的支援を受けられる「拠点」は、本市においても課題解決と発展のために必要であり、志のある人が「やりたいことを口にできる」場所づくりが急務であると考えている。 ・訪問先：自営型テレワーク推進事業「KADO」 ・視察説明・講義：塩尻市先端産業振興室 室長 太田幸一市 塩尻市DX戦略の一事業として自営型テレワーク推進事業「KADO」は、学校でのICT活用による長期的な意味での人材育成や、ひとり親家庭在宅就労支援、時間的制約のある人への就労機会、地域の人材不足解消等の解決に向け、「働きたい誰もが、働ける機会のある社会をめざして」を理念に、それぞれのライフスタイルに応じた就労やテレワーク従事者へセフティーネットとして機能している。また、テレワーク活用のノウハウや実戦経験を、導入を目指す自治体や関連団体へのサポートと、登録団体へのICT業務専門研修や自治体向けの就労支援導入のコンサルティングも行い、培った取り組みの成果を各方面へ提供しようとしてくれている。KADO に就労している人の多くは時間的制約のある女性が占めており、「AI活用型オンデマンドバス」の運用とその自動運転に関わる業務にあたっている。本市においてまだまだ未知数の取り組みであるが、参考にしながら施策に繋げていきたい。				

会 派 名		沼田創生会	議員名	相澤宗利
1	期 日	令和7年2月5日(水) ～ 令和7年2月6日(木)		
2	調 査 事 項	塩尻市行政視察		
3	所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など)を記入		
2日間かけて塩尻市の行政視察に行ってきました。				
塩尻市は松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置しており、人口約6万5千人という街です。				
人口規模や産業構造、地理的にも沼田市に似ている面が多く感じられる自治体です。				
1日目は塩尻市のシビックイノベーション拠点スナバに行き、若者を中心としてイノベーションを生み出す仕組みづくりについて学んできました。				
入った途端、おしゃれな雰囲気、とにかく若者が多く、各々の作業をしたり、侃々諤々意見交換している様子が印象的でした。				
そこに集う仲間たちが、意見を交換することで新たな事業が生まれることが素晴らしいと感じました。				
また風土的に塩尻市が特異な環境にあるわけではなく、全体を引っ張っていく人物がいることと、理念に共鳴する人たちが集まれる場所さえあれば、再現性があるように感じました。				
ですので、全国で行われている一般的な企業マッチングのようなやり方ではなく、志を同じくする者達が集える場所をどのように形成していくかということを考えさせられました。				
その先に、移住促進、起業支援、産業活性化などがあると感じます。				
移住だけでなく、二拠点居住や関係人口増にも影響があるという意味でも国が進めようとしている政策とも相性が良いものと感じました。				
次に、KADOという施設を見学してきました。				
デジタルの力で働く場所の創出を実現していて、まさに理想的な場所づくりだと感じました。				
デジタルでつながることによって全国の自動運転バスの案内をできたり、他の自治体と協力体制をとりながら顧客に対応していくことができていました。				
もちろん、デジタル機材の充実も素晴らしいと感じましたが、1番印象的だったことは営業能力です。				
担当職員が営業を全国にかけて仕事を取ってきていました。				
結局は人の熱意でどれだけの人を協力を得られるかが問われるのだなと感じました。				
システムだけでなく、議員として当局に任せるだけでなく市の利益を取りに行く実行をまねしたいと感じました。				
二日目は景観について学ぶために奈良井宿を視察しました。				
統一された景観によって観光客の誘致や文化歴史の周知継承のために有効な取り組みだと感じました。				